

# 持続可能な社会の創り手を育む主権者教育を目指して

## －第3学年総合的な学習の時間（ERキャリア・主権）実践報告－

竹島 潤・坪田 智行・渡邊 晶・三村 悠美子

### 1 はじめに

日本では国政か地方政治かを問わず、投票率の低さや「政治離れ」が懸念されて久しい。国は、諸外国に歩調を合わせるとともに、若者の政治離れに歯止めをかけるのが狙いで、いわゆる「18歳選挙権」を2016年（平成28年）6月22日から導入した。選挙権年齢が引き下げられたのは、25歳以上を20歳以上に改めた1945年以来70年ぶりである。導入後初の2016年参院選では、引き下げの影響に社会やマスコミが注目した結果、18歳51.28%、19歳42.30%という比較的高い投票率を記録した。しかし、2017年の衆院選では18歳47.87%、19歳33.25%、2019年の参院選は18歳34.68%、19歳28.05%と次第に低下している。選挙権年齢の引き下げが若者の政治離れに歯止めをかけたとはとてもいえない現状が見えてくるが、この問題が若者に限ったことではないことは、2020年10月の任期満了に伴う岡山県知事選（投票率33.68%）で4年前の前回を0.23ポイント下回り、2回連続で過去最低を更新していることから明らかである。

若者の政治参加を進めるため、総務省と文部科学省は、選挙や投票の仕組みを分かりやすく解説し、模擬選挙や模擬議会の実施方法などを例示した、高校生向け副教材「私たちが拓く日本の未来」を作製し、ディベートで政策論争し、有権者の1人であることを「若者」に実感してもらおうとしている。しかし、中学校社会科（公民的分野）を学んでいる生徒のことを考えると、やはり中学生段階から、時事的・論争的なテーマに触れながら、政治や政策と関わる接点を通して、政治や社会に参画したい気運を醸成していくことが大切なのではないだろうか。本稿では、平和学習や個人テーマ探究活動などの取組を通して学び、成長してきた第3学年で、初めての試みとして実践したER（キャリア・主権）学習プログラムの実践記録を残し、今後の学習プログラムをより効果的にする手助けとしたい。

### 2 研究主題について

#### (1) 主権者教育の動向について

「今後の主権者教育の推進に向けて（中間報告）」（令和2年11月）においては、「（3）主権者教育をめぐる課題」において、「…投票という行為は主権者としての行動の一つであり、主権者教育の「出口」としての側面を有している」と言及しており、前述の投票率の低さは主権者教育の必要性をより強く認識させる。また、主権者教育の「入口」として、「社会の動きに関心を持つこと」が益々重要であり、「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う等の観点から、新学習指導要領の下、政治や社会などに係る諸課題に関心を持ち追究する中で、主権者として必要な資質・能力を、各学校段階における学びを通じて、あるいは家庭や地域における学びを通じて、社会総がかりで児童生徒に確実に育成していくための方策を講じていくことが重要である」と方向性が示されている。

同推進会議の中間報告では、主権者教育推進の方向性―提言―として、下記が挙げられている；

- 1) 各学校段階での主権者教育の充実
- 2) 家庭、地域における主権者教育の充実
- 3) 主権者教育の充実に向けたメディアリテラシーの育成

本学習プログラムについて言えば、上記をもとに次のように整理できる；

- 1) 中学校における挑戦的試み
- 2) 県・市の議会議員・同事務局・選挙管理委員会、主権者教育NPOなどとの連携・情報共有
- 3) 様々な事前学習資料を用いた、生徒主体による実行委員会方式の取組

#### (2) 主権者として求められる資質・能力

次の2点を参照したうえで、本校の総合的な学習の時間が育成を目指す資質・能力をふまえて、単元計画を作成した。

- ①「主権者教育の推進に関する検討チーム最終まとめ」では、主権者教育の目的として、  
「単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる」（下線筆者）ものとされている。

②「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では，「5．現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力（主権者として求められる資質・能力）」として，

「事実を基に多面的・多角的に考察し，公正に判断する力や，課題の解決に向けて，協働的に追究し根拠をもって主張するなどして合意を形成する力，よりよい社会の実現を視野に国家・社会の形成に主体的に参画しようとする力」（下線筆者）

ここで，本校の総合的な学習の時間（ER）について確認しておく，それは本校教育目標「自主自律 豊かな心で たくましく」の具現化を図るカリキュラムにおいて，教科横断的・総合的な教育活動の中軸であり，「探究的な見方・考え方を働かせながら様々な人，もの，事に関わる総合的な学習を通して，目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し，自己の生き方を考えていく」ために，次の資質・能力を育成することを目指している。

- [1] 課題解決に必要な知識及び技能を身に付け，探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- [2] 教科学習や自己の経験と関連付けたうえで，見通しや根拠をもって探究の過程を意識して学習を進めることができる。
- [3] 互いのよさを生かしながら，持続可能な社会づくりに参加・参画・貢献・寄与しようとする態度を育てる。
- [4] [1]～[3]を通して，持続可能な社会の形成者としての能力・態度を育む。

これらは，「ESDで育みたい能力・態度」（2012，国研）をふまえた，総合的な学習の時間の学習プログラム開発における「探究の過程」における留意点と対応している。こうして3年間取り組んできた総合的な学習の時間に，「主権者として求められる能力」を意識したキャリア教育に取り組むことは，生徒たちの政治への関心や社会参画への意識を向上させることはもちろん，本校教育活動として「社会への参画・貢献・寄与」に繋がるものとする。（図1）

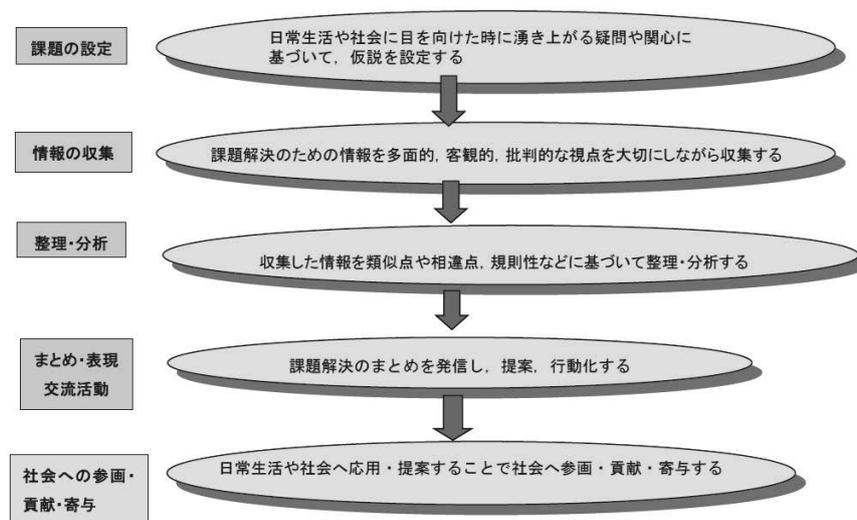


図1 本校総合的な学習の時間における「探究の過程」

### 3 実践

#### (1) プログラム全体について

##### ①目的

- ・個人テーマ探究活動との繋がりから，SDGs課題解決に向けて主権者および市民として何ができるのか，主体的に行動することとは何かを学ぶ。
- ・地元や本校に縁のある政治家（議員）の思いに触れたり，意見交換をしたりすることで政治や政治家への心理的距離を縮める。
- ・上記により卒業後に選挙権を行使する市民，持続可能な社会の創り手としての基礎的素養を養う。

##### ②連携先

- ・地元議員の方々 ・岡山県選挙管理委員会 ・岡山県議会事務局
- ・岡山市選挙管理委員会 ・岡山市議会事務局

### ③構成

- ・第1回目
  - 日時：12月2日（水） ワークショップ式授業&ミニ講演（オンライン）
  - 講師：原田謙介さん（若者と政治をつなぐNPO法人Youth Create元代表）
  - 内容：自己紹介，高校生選挙権との実態，社会（地域）課題と政治のつながりなどについて
- ・第2回目
  - 日時：12月9日（水） GIFT講演会 演題：「議員外交を通して」
  - 講師：逢沢一郎さん（衆議院議員・本校OB）より国政・議員外交や国際協調について
- ・第3回目
  - 日時：12月23日（水） 地元議員の方々との意見交換会
  - ゲスト講師：地元選出議員（現職）の方々10名 ※※
  - 内容：各クラスに2名（県議1名・市議1名）をお招きし，生徒数18名ずつのグループで，話を聞いたり質疑応答したりする。その後クラス間で情報・意見交換をおこなう。
- ・その他
  - ER実行委員会で準備・作成した「事前学習資料」を用いた取組を随時行う。

## (2)各取組について

### 【第1回：ミニ講演会およびワークショップ】

#### ①目的

- ・政策が自分や身の周りの生活に関わることに気づき，地域や社会の課題を解決する上で，政治が有用であることを理解できる。
- ・第3回「地方議員ゲストの方々との意見交換」をする際に生かすことのできる視点や考え方を養い，今回のプログラムに繋げる。
- ・政策（政治）が自分のライフステージにいろいろと関わることを理解し，今後の政治参画に繋げる。

#### ②準備物 ERファイル，A3用紙2枚&マジック（各班），ワークシート，スクリーン&プロジェクタ Zoom入室，カメラ&マイク，付箋50枚×2セット

#### ③講師 原田 謙介さん（元NPO Youth Create代表）

#### ④内容

講師に会議室よりZoomオンラインで，3年生5クラスにミニ講義およびワークショップの全体進行をしていただき，その後各教室で学級担任・実行委員を中心に個人・グループ学習を行った。ミニ講義「あなたが主役の政治」では，大学時代より10年以上「政治の若者離れ」を打破するために活動を続けてこられ，2019年参議院選挙に地元岡山で立候補，落選するも引き続き，岡山から社会を作ろうと挑戦されていることをお聞きした。その上で，少子高齢化や人口減少の社会変化，政治・社会・まちに新たな仕組みが必要であること，学生・若者の視点が重要であることなどについて，ご講義いただいた。また，海外の事例として，新型コロナウイルス感染予防による休校下でオンライン授業が一斉にスタートした国，放課後に若者たちが集える多様な場所がある国，保育園から大学まで学費が無料な国のことなどをお話いただき，「あなたの力があれば，変化をつくることのできる」とのメッセージが届けられた。

ワークショップ式授業（約1時間）は次のように進めた；

- ア) 岡山市内や本校付近の写真などから，「これって政治（政策）と関係ありそうだ」と思えることを，人・もの・事の視点から，班で書き出す。
- イ) 書き出したものについて，共通点や特徴を整理した上で，クラス内で共有する。（図2）
- ウ) 政策分野（大枠）【赤】と政策（具体的）【青】とで色分けし，政策に「国レベル」と「地方レベル」の分類があることを確認する。
- エ) ER探究との関連性を考える機会として，各クラス代表プレゼンのテーマが，どんな政策と関係ありそうか，人（世代）・もの・事の視点からできるだけ多くA3用紙に書き出す。

※A「備前焼」 B「町に必要な道路」 C「エシカルファッション」

D「神社とSNS」 E「友達関係や悩み」

- オ) 全体で共有するとともに，講師より補足情報を聞き，身の周りに「政策」がたくさんあることに



### 【第3回：ゲスト議員の方々との意見交換会】

#### ①目的

地元や本校に縁のある政治家（議員）の思いに触れたり、意見交換をしたりすることで政治や政治家への心理的距離を縮める。また、持続可能な地域・社会づくりを目指す上での課題解決の手段として、政治があることを学ぶ。

②準備物 ゲスト議員紹介シート、質問・テーマの準備（学年共有／クラス独自のそれぞれ）

③講師 3 A 3 B 3 C 3 D 3 E

【県議】5名 波多 洋治さん 高橋 徹さん 大塚 愛さん 中川 雅子さん 木口 京子さん

【市議】4名 ー 中原 淑子さん 竹永 光恵さん 松本 好厚さん 森山 幸治さん

#### ④内容（当日の日程）

14：15 ゲスト議員の方々ご来校（会議室） ⇒ 14：30 3年各クラスへ移動

14：35～14：55 交流①

約10分：ゲスト議員の自己紹介・議員になった理由や力を注いでいることなど

約10分：生徒による質疑応答など

14：55～15：15 交流②（同クラス内でゲスト議員交代；上記同様）

15：15～15：30 クラス記念撮影後、小休止

※議員の方々は会議室へ移動 ※教室の原状復帰

15：30～15：50 クラス間での共有（オンライン会議）

15：50～16：00 各議員からメッセージ（1分×10）※オンライン

16：05～16：10 諸連絡などの後、閉会

#### ※交流①②のテーマ

【共通】①投票率の改善 ②1票の格差

【クラス独自】A「岡山をよくするために強化したいこと」「議員になって成し遂げたこと」

B「議員になったきっかけ」「人前で話すときのコツ」

C「若者の意見（SNSと政治）」「県と市の予算の使いみち」

D「18歳の選挙権」「これからの岡山」

E「コロナにおける政治への影響」「政治についての考え方」

※ゲスト議員の方々へのご依頼は、下記をふまえて行った。

- ・教育や青少年育成の現場経験・造詣・理解などを持たれていること。
- ・できるだけ多様な会派、選挙区の方であること。
- ・これまでの本校教育活動を参加、参観されていること。（附中生だっぴ、SDGs領域横断授業など）

### (3) 学年団教員での共通理解について（令和2年11月10日（火）学年会資料より）

各学級でのゲスト議員交流会に向けて、本プログラムの要点を再確認した。特に実行委員会や各クラス交流会に向けた準備の中で、気になることを情報交換・共有した。

【大切にしたい共通認識（指導助言する教員として）】

- ・ER（探究）で取り組んできた問いの解決として、政治・政策という選択肢があることを意識付ける。
- ・高校3年（18歳）で選挙権を有する時に、主体的な有権者として行動できる基礎的素養を養う。
- ・政治や議員（政治家）について、メディア情報を鵜呑みにしたり偏見をもったりではなく、フラットな立場で、理解し批判できる態度を育てる。
- ・戦後75年が経つ我が国における民主主義や平和主義、権利保障の意義をあらためて理解させる。

### (4) 実行委員会の取組

学年代表11名（各クラス代表2～3名ずつ）が取組に向けた話し合い、事前学習や当日の司会進行・あいさつなどの準備を通して、主体的に関われる機会とした。下記の放課後に1時間程度行った。

○10月7日（水）第1回実行委員会 趣旨説明と役割分担

○11月23日（金）第2回実行委員会 ゲスト議員の方々へ挨拶状送付

○11月2日（月）第3回 事前学習や当日に向けた準備

○11月20日（金）第4回 同上 ※アドバイザー原田謙介さんご参加

○12月14日（月）第5回 同上

○12月18日（金）第6回 同上

○12月23日（水）第7回 ふりかえりなど ※アドバイザー原田謙介さんご参加  
実行委員会の取組は以下の通り；

- ①講師依頼の生徒代表挨拶文の作成，授業当日の司会進行・お礼の言葉など
- ②事前アンケートの作成・実施・集計・結果報告 ※事後については，教員で行った。（図3）
- ③スライド動画の作成・放映

3回にわたり，昼食時間にオリジナルのスライド動画を放映した。社会科（公民的分野）の学習内容をふまえてスライド作成したものを，プレゼンテーション録画，放映した。

○A「現代の政治について」（2m30s）

政治が「社会における様々な利害を調整して問題を解決していく営み」であり，「私達の社会は政治によって形作られている」ことを確認した。その際，中世ヨーロッパの君主政治と比較したうえで，日本の民主政治＝国民主権について触れ，「主権者である私達国民自身が積極的に政治に参加する必要があるので，このERプログラムを通して主権者意識を高めよう」と結んだ。

○B「県政・市政の取組紹介」（3m40s）

県議会，市議会の主な仕事として，議決，同意，調査，請願，陳情について紹介した。また，県・市の地方政治における下記の取組を紹介したうえで，県議会議に積極的に質疑することを啓発した。

- ・県政の取組（COVID-19対策，学力向上プログラム，観光振興プログラム）
- ・市政の取組（経済・交流都市，子育て・教育都市，健康福祉・環境都市）

○C「政治に関するアンケート結果報告」＆「メッセージ」（5m30s）

12月8日実施の事前アンケートへの協力感謝し，結果報告と感想など（下記）を伝えた。

- ・（政治への興味・関心で）講演会で興味をもった，休校期間中に国会中継を見たなどの回答があり，とても嬉しかった。
  - ・（投票行動について）将来選挙に行くという回答が85%以上もあり，とても嬉しかった。
- また，第3回に向けて学年主任の先生，ER実行委員長から授業への積極的な参加をメッセージとして届けた。

④資料冊子・自作プリントの配付

A「SNSと政治のかかわり」 B「わたしたちと選挙」 C「わたしたちの県議会」

D「ゲスト議員プロフィール」を作成し，朝読書の時間に読み物資料として配布，活用した。

## 4 成果と課題

### (1) 生徒の自己評価から

本学習プログラムの事前（12月8日）および事後（1月25日）に実行委員会の活動としてアンケートを行った。（表1）前者は事前学習の一環としたが，準備などの都合もあり第1回の取組後にアンケート実施となった。そのため，質問2への肯定的回答はすでに高まっていたと考えられる。後者は項目5をふまえ，社会科（公民的分野）の授業で実施した。項目1～3について事前と事後で回答割合の変化を見ると，いずれも肯定的回答（4・3）が増加し，否定的回答（2・1）が減少した。特に本学習プログラム後の1「政治への興味・関心」，2「投票行動」への肯定的回答率は，それぞれ86%，90%と高い結果を出すことができた。なお，事後の項目4～8の肯定的回答率は順に68%，66%，92%，75%，92%であった。項目4は各クラス交流のゲスト議員の年代やお人柄によりばらつきが生じたと考えられる。項目5・7の肯定的回答を伸ばすには，学級活動（話し合い）や生徒会などの時間も活用して，クラスが学校という身近な社会づくりの参画を意識づけながら気付かせることが必要だと考える。今後は，社会科（公民的分野）や英語科（世界の人権問題や政治）など各教科とのマネジメントも行い，教科横断の視点を充実させたプログラムとして生徒の変容を見ていきたい。（図3）

### (2) 実行委員の自己評価より

実行委員会（最終）で次の点について，5段階スケールで振り返りを行った；

- ア) ER個人テーマ探究活動との繋がりから，SDGs課題解決に向けて主権者として何ができるか考えたり，学んだりできた。
- イ) 地元や本校に縁のある政治家の思いに触れたり，意見交換をしたりすることで，政治や政治家の方々を身近に感じる事ができた。

ウ) 卒業後に選挙や日常生活を通して、政治に参加していこうと思えた。

エ) 学年やクラスの仲間が学べるように、実行委員としての役割や責任を果たすために行動できた。肯定的回答率は100%だった。記述コメントは下記に一部抜粋する；

- …この実行委員会の活動を通して「どうすれば興味をもってもらえるか」を考え、行動することができました…今後は成果がもっと出るような質の高いアクションを起こす力を身につけたいです…率先して行動したことで、自主性や主権者意識を高めることができたと思うのでよかったです。今回の経験を高校以降に生かしたいです。
- …社会（公民）で学んだ上で、自分で調べていくことで、より興味をもつことができました…講演会では普段聞くことのできないような貴重なお話をお聞きし、ゲスト議員交流会でも不安は多くあったけど、一方的な話にならないように、両方向から意見を出し、お互いにどちらかという生徒の方が主体となれるようにして、会をまとめることができたと思います。ERキャリアを通して、政治に自ら関わっていく方法がたくさんあると知ったので、自分から興味を持って積極的に政治参加したいです…。
- 政治が何たるか、そしてなぜ存在するのか、どのような関係があるのかを知ろうと自分から考えて、いろいろなことと関連付けていき、考えを深めることができた。だから、自分が苦手と思っていた社会科（公民）ができるようになったと思う。また、これからは自分たちもより深く、密接に政治と関わっていくこととなるが、そんな中でも、正しいことは何か考えながら行動できるようにしていきたい。
- 自分はもともと政治と自分とは関係ない、離れたことだと思っていて、政治をより身近なことだと思えるように、ERキャリアの仕事をしようと思いました。今日のために色々準備しましたが、今日になるまであまり実感がわいていませんでした。しかし、実際に議員の方々のお話を聞いてみると、自分の考えていたことと違うことが多くて驚きました。県議の方、市議の方から、個人的な要望でも伝えることが町を変える第一歩になるということが分かりました。実際に議員さんと交流したことで、立場のある方の話をそのまま聞くのではなく、立場のある方にも自分の意見を主張することができました。また、実行委員として計画を立てて行動していく中で、どうしたらもっと分かりやすくなるだろうと視点を変える力が付いたと思います。

### (3)外部評価指標「Ai GROW」から

本校共通研究に実施している「Ai GROW」（IGS社）を活用し、本学習プログラムの教育的効果を可視化したいと考えた。そこで、第2回（10月2日実施）と第3回（12月24日実施；本プログラム直後）における生徒のコンピテンシー・スコアの変容を見ることとした。全体的に、第1回から第2回に見られた伸長を失速させることなく、引き続きコンピテンシーの伸長がほぼすべての項目で見られたことに加え、「主権者として求められる資質・能力」と関連付くコンピテンシーとして、「課題設定」「論理的思考力」「個人的実行力」「表現力」「影響力の行使」の全項目で伸長が見られた。他者評価で最も伸長が見られたのは「表現力」（0.9ポイント上昇）と「影響力の行使」（1.1ポイント上昇）であった。自己評価においては、上記すべてのコンピテンシーにおいて他者評価以上の伸長が見られた。最も伸長が見られたのは、「表現力」（2.2ポイント上昇）、「影響力の行使」（3.9ポイント上昇）であった。コンピテンシーの伸長は、「Ai GROW」実施直近の教育活動が大きく影響することから、本プログラムは十分に教育効果があったと考えられる。今後、お互いの変化・成長について、意見交換や成果物の共有などにより、気づき、認め合える手立てをもたせることで、さらなる改善を行いたいと考えている。

なお、本プログラム実行委員生徒の「Ai GROW」振り返りシートにおいて、「最もスコアの高い」または「最も変化が大きかった」コンピテンシーについて、「そのコンピテンシーが高い理由（成長に寄与した経験や行動）」として、11名全員がERキャリア・主権学習プログラムおよび実行委員会のことを回答していたことも付記しておく。

### (4)ゲスト議員のコメントから

交流会当日の事前（12月8日）および事後（1月25日）に実行委員会の活動としてアンケートを行った。その感想などからも本取組の意義を確認できたと考える。以下、一部抜粋しておく；

- ・しっかり準備されており、真剣な質問・意見ばかりで勉強になりました。時事ニュースも意識されていることに感心しました。

- ・政治や議員は身近に感じることは少ないかも知れませんが、日常生活の中で困ったことがあれば個人の悩みに留めておくのではなく、市や県のもっと多くの方の課題だと認識してもらえたらと思います。
- ・時間とコロナの制約の中で、よく練られたプログラムだったと思います。自治体は学校や教育を所管しているので、学校ネタから政治へ話題を広げるような仕掛けも面白かったかも。
- ・政治に関心を持っていることは素晴らしい！真面目に聞いてくれて嬉しい！夢や希望を持ってこれからも頑張りたい！
- ・SDGsの精神にあるように、「誰一人取り残さない」、取り残されている人はどんな方か、そこに視点を置いて欲しいと伝えたかったです。

**ERキャリア・主権 事後アンケート**

3年総合・社会科/ERキャリア・主権実行委員会  
( )組( )番 氏名( )

皆さん、昨年12月には第3学年ERでの事前授業、ワークショップ、講演会、ゲスト議員交流会などお疲れ様でした。さて、今回事後アンケートとして次の項目にご回答ご協力をお願いします。もっともあてはまると思うものを1つ選んで、○をしてください。

(1) あなたは政治に興味がありますか。  
とてもある 少しある あまりない 全くない

(2) あなたは将来、選挙権を得たら、投票に行きたいですか。  
必ず行く 行けたら行く 多分行かない 行かない

(3) 市や県の政治的な取り組み(学校で学習した以外)について、どのくらい知っていますか。  
詳しい 少し知っている あまり知らない 知らない

(4) 議員の方々(政治家)に対して親近感が高まりましたか。  
そう思う まあそう思う どちらでもない あまり思わない 全く思わない

(5) 学校の生徒会選挙や生徒会活動への関心・意欲は高まりましたか。  
そう思う まあそう思う どちらでもない あまり思わない 全く思わない

(6) 社会科の内容(政治(国政・地方自治)や国際社会)と関連付けて考えることができましたか。  
そう思う まあそう思う どちらでもない あまり思わない 全く思わない

(7) 自分の行動が、よりよい地域や社会を創ることにつながると感じますか。  
そう思う まあそう思う どちらでもない あまり思わない 全く思わない

(8) 中学生の時に、このような学習、経験をもつことは有意義だと思いますか。  
そう思う まあそう思う どちらでもない あまり思わない 全く思わない

\*\*\* ERキャリア・主権プログラム全体について(記述コメント;あれば) \*\*\*

図3 事後アンケート(生徒)

ER(キャリア・主権)アンケート				
	回答	事前12/8	事後1/25	変化
(1)政治への興味・関心	4 とてもある	26%	30%	+4
	3 少しある	49%	56%	+7
	2 あまりない	18%	12%	-6
	1 全くない	7%	2%	-5
(2)投票行動	4 必ず行く	47%	49%	+2
	3 行けたら行く	40%	41%	+1
	2 多分行かない	10%	8%	-2
	1 行かない	3%	2%	-1
(3)県・市政の理解	4 詳しい	3%	11%	+8
	3 少し知っている	43%	57%	+13
	2 あまり知らない	44%	26%	-18
	1 知らない	10%	6%	-4

表1 アンケート結果(事前・事後)

## 5 謝辞

本実践は、分掌・学年における協働体制はもちろんのこと、県・市の議会議員・同事務局・選挙管理委員会、主権者教育NPOなど関係者の皆様との情報共有や連携・協働により実施できている。あらためて、関係各位に御礼申し上げます。

### 【参考文献など】

- 1) 文部科学省(2020)主権者教育推進会議『今後の主権者教育の推進に向けて(中間報告)』
- 2) 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説総則編』附録6:現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容についての参考資料「主権者に関する教育」
- 3) 文部科学省(2016)『主権者教育の推進に関する検討チーム 最終まとめ』
- 4) 中央教育審議会答申(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』(抜粋)
- 5) 内閣府(2016)『平成28年度地域課題対応人材育成事業 地域コアリーダープログラム 派遣日本参加者報告書』(ドイツ/青少年関連活動)
- 6) 岡山県主権者教育研究推進委員会(2017)『学校全体ですすめる主権者教育実践事例集 未来を拓く主権者教育』
- 7) 特定非営利活動法人Youth Create(2015)『若者と政治を“つなぐ”-21世紀型政治参画のための知識、思考・行動、そして実践-』
- 8) 小玉重夫(2014)『近年のシティズンシップ教育の動向』(中等教育資料H26.12月号)